

2018 年度いのちのセミナー 講師の方々

<p><b>第1回</b> 2018年5月20日(日) <b>大林 宣彦</b> 映画作家</p> <p>「あなたのいのちと私のいのちを 考える～あなたと私は人であるから～」</p>		<p>1938年広島県尾道市生まれ。3歳の時に自宅の納戸で出合った活動写真機で、個人映画の製作を始める。16mmフィルムによる自主製作映画『EMOTION=伝説の午後・いつか見たドラキュラ』が、画廊・ホール・大学を中心に上映され、高い評価を得る。</p> <p>1977年『HOUSE/ハウス』で商業映画に進出。同年、ブルーリボン新人賞を受賞。故郷で撮影された『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』は“尾道三部作”と称され親しまれている。長年にわたり精力的に作品を製作し数多くの賞を受賞。最新作『花筐/HANAGATAMI』が2017年12月に公開。</p> <p>2004年春の紫綬褒章受章、2009年秋の旭日小綬章受章。</p>
<p><b>第2回</b> 2018年8月9日(木) <b>関谷 直人</b> 同志社大学神学部教授 牧師</p> <p>「いのち輝かせるために今 死と向き合おう～キリスト教から見た「いのち」「死」～」</p>		<p>1960年大阪府生まれ。1982年大阪芸術大学音楽学部音楽工学専攻卒業。1988年3月同志社大学大学院神学研究科博士課程(前期)修了。1990年日本キリスト教団霊南坂教会牧師。1992年米国ペン合同メソジスト教会日本語部牧師。1996年同志社大学神学部勤務(研究助手)。2006年同志社大学神学部教授。</p> <p>著書に『牧会の羅針盤—メンタルヘルスの視点から』『ドメスティック・バイオレンス そのとき教会は』など。『信徒の友』において「ヒット曲の神学」を連載。季刊誌『ミニストリー』において「教会指南」を連載。</p>
<p><b>第3回</b> 2018年8月22日(水) <b>山崎 直子</b> 宇宙飛行士 立命館大学客員教授</p> <p>「宇宙、ひと、いのちをつなぐ」</p>		<p>東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了後、宇宙開発事業団(現・宇宙航空研究開発機構 JAXA)に入社。国際宇宙ステーションの開発事業にエンジニアとして従事しながら、宇宙飛行士を目指す。2010年4月にスペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗し、宇宙へ初飛行、国際宇宙ステーションの組み立て・補給を任務とするミッションに参加。2011年にJAXAを退職。現在は、内閣府宇宙政策委員会委員、立命館大学等の客員教授、各地科学館の名誉館長などを務めている。</p> <p>著書に『瑠璃色の星』『夢をつなぐ 山崎直子の四〇八八日』など。</p>
<p><b>第4回</b> 2018年9月21日(金) <b>垣添 忠生</b> 公益財団法人日本対がん協会会長 国立がんセンター名誉総長</p> <p>「人はがんとどう向き合うか」</p>		<p>1941年大阪市生まれ。1967年東京大学医学部卒業。都立豊島病院勤務などを経て、1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務、1992年病院長、2002年総長に就任。2007年に退職し、その後、同センター名誉総長、公益財団法人日本対がん協会会長に就任。</p> <p>著書に『がんと人間』『妻を看取る日』『悲しみの中にいる、あなたへの処方箋』『巡礼日記-亡き妻と歩いた600キロ』など。</p>
<p><b>第5回</b> 2018年10月11日(木) <b>佃 祐世</b> 弁護士、自死遺族</p> <p>「生きたいのに生きられなかった命～自死遺族の立場から語る～」</p>		<p>山口県生まれ。1998年に当時司法修習生の夫と結婚。その後、夫は裁判官となり、4人の子宝にも恵まれる。2007年に突然夫を自死で亡くす。夫の遺志を継ぐために司法試験に挑戦し、40歳で合格。2013年から弁護士として活躍している。2016年「はつかいち法律事務所」を設立。自死遺族として、弁護士として、自死遺族支援弁護団のメンバーとして、自死予防や自死遺族支援活動にも精力的に取り組んでいる。</p> <p>著書に『約束の向こうに』。</p>
<p><b>第6回</b> 2018年11月2日(金) <b>小笠原 望</b></p>	<p>(今回参加者募集)</p>	
<p><b>第7回</b> 2018年11月29日(木) <b>南 直哉</b></p>	<p>(今回参加者募集)</p>	
<p><b>第8回</b> 2019年3月17日(日) <b>浜村 淳</b> パーソナリティ 映画評論家</p>		<p>1935年京都市生まれ。同志社大学文学部卒業後、本格的にタレント活動を始める。1974年からMBSラジオの『ありがとう浜村淳です』のパーソナリティを担当。タレントとしては初めて、国立大学(和歌山大学経済学部)の講師となったことで話題になった。その後1994年に追手門学院大学文学部講師として再び教壇に立った。</p> <p>著書に『話上手で心をつかめ』『さてみなさん聞いて下さい 浜村淳ラジオ話芸』『源氏物語 花はむらさき』『京都人も知らない京都のいい話』など。</p>